

上杉謙信公

越後が生んだ戦国の名将



上越市



信長の野望
出陣

© コーエーテックモゲームス All rights reserved.

当パンフレットは、第100回謙信公祭を記念し、株式会社コーエーテックモゲームスとコラボレーションし、作成しています。

謙信公ってどんな人？

幼少期 ～育まれた義の心～

戦国時代当時の越後国は豪族同士が権力を巡り、争いが絶えない地域でした。

そのような状況の中、上杉謙信公は1530（享禄3）年、越後守護代^{（※）}であった長尾為景の末子として春日山城で誕生しました。7歳の時に兄の晴景が家督^{（※）}を継ぎ、謙信公は春日山城下の林泉寺に入り14歳まで文武の修行を行いました。謙信公の、深い学識、厚い仏心はこの時代に培われたと言われています。

初陣から越後統一 ～戦国の世に現れた越後の龍～

1543（天文12）年、謙信公は元服し、兄・晴景の指示により栃尾城（新潟県長岡市）に移り、城主となります。翌年に近隣の武将から攻撃を受けますが、敵を見事に撃退し、勝利を収めました。謙信公はこの時が初陣^{（※）}でした。以降、30年以上にわたり戦い続ける日々の幕開けとなったのです。

その後、病弱であった兄・晴景に代わり、1548（天文17）年、19歳にして家督を相続し、長尾家の当主となり、春日山城へ入りました。越後守護代となった謙信公は、1551（天文20）年に長く続いていた内乱状態の越後を治めることに成功します。

この時、謙信公は名実ともに越後国主となったのです。

戦いの日々 ～世に知らしめた義のための戦い～

1552（天文21）年、関東管領^{（※）}上杉憲政が、相模（神奈川県）の戦国大名・北条氏康に敗れ、越後へと逃亡してきたため、謙信公は憲政を保護。これにより北条氏康と敵対することになります。

また、翌年には、甲斐（山梨県）の武田信玄に土地を奪われた信濃（長野県）の武将たちの要請を受け、土地を取り戻すため、武田信玄と対決することになります。後に川中島の戦いと呼ばれるこの戦いは5度にわたり行われたとされています。

1560（永禄3）年には、上杉憲政が関東に戻る手助けをするため、関東に出陣し、北条氏康と対決します。翌年、上杉憲政より関東管領職を継承することになりました。以降、謙信公は十数回にもわたり関東に出陣しました。

このように謙信公は自身のためでなく、人に頼られて戦いに向かったのです。

晩年 ～戦国時代屈指の名将の最期～

川中島の戦いや関東への出陣など、戦いに明け暮れていた謙信公は、1570（元亀元）年、法号^{（※）}謙信を名乗ります。有名な「上杉謙信」の名はこの時誕生しました。

1577（天正5）年、能登（石川県）を支配下に治めた謙信公は、能登に向かってきた織田信長の軍勢と戦い、織田軍を撃破しました。

勢いそのままに謙信公は、1578（天正6）年、関東へ出陣を計画しますが、出陣直前に春日山城で倒れ、そのまま帰らぬ人となりました。死因は脳溢血とも言われています。49年の生涯でした。

【用語解説】

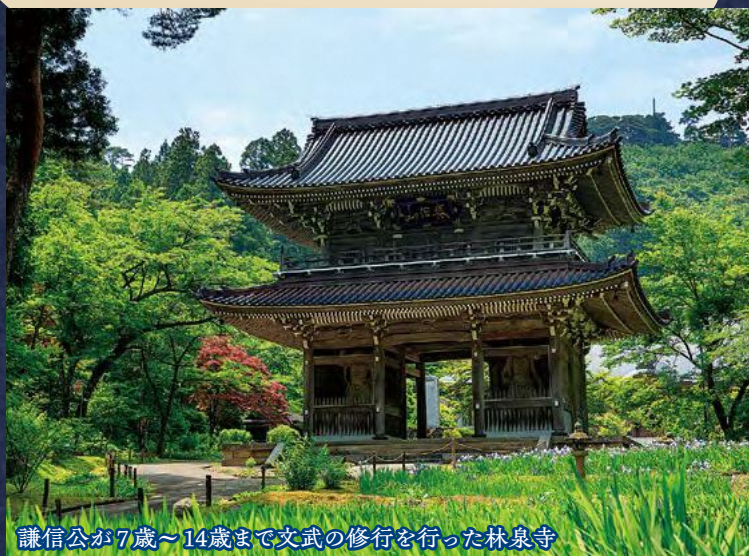
守護代…鎌倉時代や室町時代に幕府から任命され、一国を統治する役職であった「守護」の職務を代行した役職のこと。今でいう県知事と副知事のようなもの。

家督…古くは、一族の首長を意味した。室町時代には家を継いだ者、さらにはその相続した領地も意味するようになった。

初陣…初めて戦いに出ること

関東管領…室町時代、関東10か国を治めるために室町幕府が設置した鎌倉府にあって、その長官である鎌倉公方（足利氏）を補佐するために設置された役職。代々、上杉氏が世襲した。

法号…出家し、仏門に入った際に与えられる名のこと。宗派によって、法名、戒名などと言う。本来は死後に与えられるものだが、戦国時代には生前に法号を名乗る武将も多くいた。



謙信公が7歳～14歳まで文武の修行を行った林泉寺

ライバルたちとの戦い

川中島の戦い VS 武田信玄

戦場：川中島（長野県長野市）

信濃の武將たちが武田信玄に土地を奪われ、謙信公に助けを求めたことをきっかけに起こった有名な戦い。5度にわたり戦いが行われたとされます。

伝説：特に4度目の戦いが激しかったとされ、一説によると武田軍約4,000人、上杉軍約3,000人の犠牲者が出たと言われています。また、謙信公が武田軍の本陣に斬り込み、武田信玄と一騎打ちしたとの伝説は有名です。



関東出兵 VS 北条氏康

戦場：関東一円

関東管領・上杉憲政を保護し、その手助けをするため、謙信公は十数回も関東に出陣しました。相手は当時関東に大きな勢力を築いていた北条氏康でした。

伝説：1561（永禄4）年、北条氏康の居城・小田原城を攻めた際、謙信公は敵がこもる城の前で弁当を食べ、さらにはお茶まで飲み始めました。それを見た北条軍は謙信公めがけて鉄砲を撃ち込みましたが、命中しなかったという話があります。しかし、謙信公の思いとは裏腹に関東出兵の目的は果たされることはありませんでした。



手取川の戦い VS 織田信長

戦場：手取川（石川県白山市）

1577（天正5）年、京都に向かう謙信公と織田信長の軍勢が手取川で激突した戦い。織田信長本人は出陣していませんでしたが、織田家の主要な家臣たちが率いる軍勢を謙信公は鮮やかに撃破しました。

伝説：この戦いの後、謙信公は「この分なら、京都へ向かうのも容易であろう」と語ったとも言われています。



謙信公年表

晩年			戦いの日々			初陣から越後統一			幼少期		
1579	1578	1577	1576	1575	1574	1573	1572	1571	1570	1569	1568
49歳	48歳	47歳	46歳	45歳	44歳	43歳	42歳	41歳	40歳	39歳	38歳
上杉景勝と上杉景虎が家督を争う（御館の乱） 景虎、自害。景勝、上杉家の家督を継ぐ。			第四次川中島の戦い。計5回の川中島の戦いの中で一番激しい戦いとなった。 将軍・足利義輝より「輝」の文字を与えられ、上杉輝虎と名乗る。 将軍・足利義輝から北条氏康と和睦するよう命じられる。 第五次川中島の戦い。 出家し、上杉謙信を名乗る。 越中へ出陣。 将軍・足利義昭の要請で、信長包囲網を形成越中へ出陣。能登の七尾城を包囲する。 能登に出陣。七尾城を攻める。年を越す。 七尾城落城。手取川の戦いで、織田軍を撃破春日山城で死去。			武田軍と半年にわたりならみ合い 今川義元の調停で両軍撤退。謙信はこの際、善光寺より仏像などを持ち帰る。 義兄・長尾政景と姉・仙桃院の間に子どもが生まれる（後の上杉景勝） 第三次川中島の戦い 二度目の上洛 正親町天皇と将軍・足利義輝に拝謁 北条氏康の小田原城（神奈川県）を攻める。 鎌倉鶴岡八幡宮（神奈川県）で、関東管領職と上杉姓を相続 上杉政虎を名乗る。 第四次川中島の戦い。 関東管領職と上杉姓を相続 上杉政虎を名乗る。 第二次川中島の戦い 後奈良天皇に拝謁 武田軍と半年にわたりならみ合い 第一次川中島の戦い（長野県） 武田信玄と初めて戦う。 初めて上洛（京都へ行くこと） 後奈良天皇に拝謁 初陣から越後統一 初陣を飾る。 兄・晴景と対立 兄・晴景と和解。晴景の養子となり家督を譲られ、春日山城に入る。 15歳 14歳 7歳 1歳			越後守護代・長尾為景の末子として生まれる。 幼名は、虎千代 林泉寺に預けられる。 兄・晴景が長尾家の家督を相続 林泉寺より呼び戻され、三条城（三条市）に入る。 その後、栃尾城（長岡市）に移る。 この頃から景虎と名乗る。 栃尾城に攻めてきた近隣の武將を撃退。 初陣を飾る。 兄・晴景と対立 兄・晴景と和解。晴景の養子となり家督を譲られ、春日山城に入る。 15歳 14歳 7歳 1歳		



Level up your happiness

信長の野望 出陣

App Store からダウンロード

Google Play で手に入れます

好評サービス中

Google Play および Google Play ロゴは、Google LLC の商標です。
Apple、Apple ロゴおよび App Store は、米国およびその他の国で登録された Apple Inc. の商標です。
※画面はハメコミ合成です。©コーエーテクモゲームス All rights reserved.



春日山城

歩いて領地を拡大!

戦国ウォークゲーム





上杉謙信

謙信公にまつわるエピソード

敵に塩を送る

「苦しんでいる敵を助ける」という意味でつかわれることわざですが、このことわざは謙信公がライバルである武田信玄に塩を送った話が由来となっていると言われています。

武田信玄が領土としていた甲斐は海がなく、塩は他国から仕入れていました。ところが、武田信玄は塩の仕入先であった駿河（静岡県）の今川氏真との同盟を破棄。これに怒った氏真は報復として甲斐へ塩を売することを禁じたのです。そのため甲斐の人々は塩が手に入らず困り果てているという状況を知った謙信公が、敵対している相手であっても塩を送り、苦しんでいる人々を助けたとの話が基であると言われています。

戦国最強?!



謙信公の生涯戦績

43勝2敗24分

一説では謙信公は生涯にわたり約70回も合戦を行っており、明確な敗戦は2回だけだったとも。勝率にして約97%とされています。

車の車輪が回転するように敵を次々と攻撃する陣形です。第四次川中島の戦いにおいて用いたとされます。



くるまがかり
謙信公が用いた車懸の陣

ライバルたちからの厚い信頼

武田信玄が死を前にした時、息子である勝頼に「いざとなったら謙信を頼れ。謙信は頼めば嫌とはいわない」と語ったと言われ、謙信公も信玄が亡くなった際に「私は好敵手を失った。信玄ほどの英雄に出会うことは二度とないだろう」と涙したという話があります。

また、北条氏康は「謙信は一度引き受けたら骨になるまで義理を通す人物」と評価していたとの話もあります。

意外と子煩悩?

謙信公は生涯結婚しなかったため、実の子はいませんでした。姉の子を養子としていました。その養子である景勝公に対し、字が上手くなったことを喜んで習字の手本を送っています。戦いの日々を送り、気を許せない状況だった謙信公もこの時ばかりは親として景勝公の成長を喜んでいたようです。

謙信公を讃える「謙信公祭」

謙信公の武勇と遺徳を讃え偲び、毎年8月に開催されます。

鎧兜に身をつつんだ武者達が春日山周辺を練り歩く「出陣行列」や「川中島合戦の再現」は、戦国絵巻さながらの迫力と臨場感で見る人を魅了します。

